

〈体育科〉 5年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・器械運動の技やボールの扱いの個人差が大きい。
- ・曲のリズムに合わせて、楽しんで踊ることができる。
- ・体の発育・発達への関心は高まってきている。異性への関心も高まってきており、変化に戸惑いを感じたり、漠然とした不安を感じたりしている児童が出てきている。
- ・健康や安全についての知識はあるが、実践し継続できる児童が少ない。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・めあてをもって運動に取り組むこと、そのめあてに対して十分な振り返りができていない。
- ・自分に合った課題をもち、その解決に向けて取り組むことが十分にできていない。
- ・チームで取り組む学習では、練習方法や作戦を考えながら学習に取り組んでいた。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・体を動かすことを好み、約束やきまりを守って進んで運動する児童が多い。
- ・多くの児童が朝食をしっかりと食べて登校しているが、食べずに登校する児童も少なからずいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・楽しく運動に取り組みながら、基礎的な技能を身に付けること。
- ・体力の向上を意識して運動に取り組ませること。
- ・発達の早期化と生活習慣の多様化に配慮し、体の発育・発達についての正しい理解と健康的な生活を送るための知識を身に付けること。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・試合やゲームの結果を意識するだけでなく、練習や試合で友達と協力し、楽しさや充実感を感じさせ、チームワークの大切さを意識させる必要がある。
- ・自分またはチームの技能を高めるにはどうしたらよいか考え、めあてをもって活動できるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・めあてに向かって進んで取り組み、一人一人が楽しく運動できるように工夫しようとする態度を育てる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・運動の特性に応じた技能のポイントを明確にすることで互いに教え合える環境をつくったり、自分の能力にあつためあてをもち、自分の課題に合った活動ができるような場を設定したりする。
- ・ボール運動など、技能の習熟が必要なものには、準備運動を工夫して行い技能を高める。
- ・器械運動では、運動の特性に応じた技能のポイントを明確にすることで、互いに教え合える環境をつくったり、自分の能力に合っためあてをもって取り組めたりするように、活動の場を工夫する。
- ・正しい知識をもたせることで、心身の成長や変化には個人差があることを理解させる。
- ・自分の体や心の状態に関心をもたせるだけでなく、実感を伴わせることによって、学習課題の解決方法に気付かせ、知識の定着を図る。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・自分に合った課題をもち、基本的な動きに十分取り組んだ上で工夫させる。
- ・一人一人が練習方法を工夫したり、チームで作戦を考えたりできるよう学習カードを工夫する。
- ・学習中のチームの良さや課題を話し合う振り返りの時間を設ける。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・めあてをもって進んで運動に取り組めるよう、学習カードを活用していく。
- ・友達が頑張っていること・上手にできるようになったことなどを認め合う態度を育てる。
- ・ねらいを明確にし、個に応じた技能の習得を行い、できる喜びや達成感を得させる。
- ・体力を高めることの意義を伝え、運動の日常化につなげる投げかけをしていく。